

「絵本の読み聞かせ」

子どもに絵本を見せたり読み聞かせたりすることで、沢山の収穫を与えます。絵本は子どもの成長をサポートし、豊かな心を育みます。字が読めなくても絵を見て刺激を受け、親子で絵本を見る時間が子どもを安心させます。0才から絵本を見せたり読み聞かせたりすることで、どんな効果が期待できるのか、また、読み聞かせのポイントを紹介します。



～読み聞かせの効果～

パパとママとの幸せな時間に

子どもにとって絵本を読んでもらう時間は、パパ・ママのぬくもりが感じられる至福の時間です。また、パパ・ママの声は、お腹にいた時から聞こえていた声であり、聞いているだけで、安心できます。短い時間でも良いので、毎日絵本を読んで、ゆっくり声を聞かせてあげましょう。

絵本は愛情が伝わるコミュニケーションツールとしても、とても有効な方法ですね。

脳への科学的な効果も！

読み聞かせ中には、子どもの脳の大脳辺縁系が活発になっています。大脳辺縁系は喜怒哀楽を生み出し、その感情に基づいて基本的な行動を決めている大切な部分です。

絵本の読み聞かせ時には、言葉の意味が分からない小さな子どもでも、楽しい場面では笑顔になり、登場人物が泣いている場面では悲しい顔になります。これは喜怒哀楽を自分なりに理解しようとしている証拠です。このことから、絵本は子どもの心を豊かにすると言われているのです。

語彙が増える

色々な絵本の読み聞かせを受けることにより、子どもは自然と沢山の言葉に出会います。日常では使わない言葉も知る事ができ、そのうちに自分でも使うようになってきます。こうして語彙が増えると会話も上手になり、コミュニケーション能力が増します。

また、自分の気持ちを伝えやすくなる為、イライラも減り、穏やかな親子のコミュニケーションが取りやすくなります。

本好きな子どもに

小さい頃から読み聞かせをしてもらっている子どもは、沢山の本と触れ合う事になります。本を通して自分の世界が広がり、物語の中から様々なことを学んでいきます。こうして読書への抵抗がなくなり、文字が読めるように成長する学童期には、自然と本が好きな子どもに成長していきます。



～読み聞かせの10のポイント～

- ◆ 子どもの想像力を邪魔しないよう、オーバーな表現は控える・・・子どもの創造力を途切れさせない程度にとどめましょう。
- ◆ アドリブは入れないようにする・・・言い換えることなく、言葉のリズムを楽しみましょう。
- ◆ 質問などで話を中断しない・・・わからない言葉が出てきた時は、その言葉が示す絵を指さしてあげる等すると良いです。
- ◆ 文章をカットしない・・・時間がないからといってカットしないようにしましょう。子どもの言葉の豊かさに繋がります。
- ◆ 動きをつけたくても絵本は動かさない・・・表現上の工夫でも、子どもにとっては絵が動いてしまい読み取りづらくなります。
- ◆ 無意識の早口に注意する・・・子どもが物語に集中できるよう、はっきり、ゆっくり、心を込めて読んであげましょう。
- ◆ 絵本が見やすいように工夫する・・・絵本を持った手で絵が見えなくなる等ないよう工夫する。
- ◆ 読み終わった後に感想を聞かない・・・読み聞かせでは心の中に広がった絵本の世界を大切にしましょう。
- ◆ 繰り返し読むことの大切さ・・・同じ本を繰り返し読み聞かせした方が、子どもにとっては楽しく、語彙力も増しやすいです。
- ◆ 読み終わったら裏表紙まで見せる・・・絵本は表紙から裏表紙まで、物語が続いていることが多くあります。

参考文献：効果的な絵本読み聞かせのポイント～子どもの心を豊かにするために～・知らなきゃ損！読み聞かせがママと子供に与える驚くべき効果6つ

